保健体育科学習指導案

日　時　平成27年6月5日（金）第1校時
場　所　附属中学校2年3組教室
対　象　2年2組（男子20名，女子20名，計40名）
指導者　教　諭　　大　井　幸　乃

1　単元　傷害の防止

2　題材　「応急手当の意義と基本」

3　「応急手当の意義と基本」の学習・指導の意義

本単元は，小学5年生での「けがの防止」で学ぶ「交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがの防止」や「けがの手当」の学習と関連している。そして，高等学校の「現代社会と健康」に結び付いていく。

傷害の発生は，中学生にとって身近な問題である。日常生活における部活動や遊びなどでねんざや打撲などの傷害は多く起きている。そのため自分あるいは自分の目の前で発生した時の対処の仕方についての理解が必要となる。また，災害が発生した直後には，周りを見ると家族や友達が大けがをして意識を失っているなどの場面に遭遇することもある。災害時は，通信途絶や瓦礫・冠水による交通路の遮断で，救急車の到着が期待できない状況もある。そこで，生徒に応急手当についての知識を身に付けさせ，その身に付けさせた知識を基に，これから直面するであろう問題に対して，思考力・判断力を発揮させることができる学習の展開をすることが重要であると考える。

本題材は，「応急手当の意義と基本」について，いざというときに正しい対処法を身に付けておくことの重要性を理解させることが大切である。学校の保健室利用について養護教諭から本校の実態を伝えてもらうことにより，現状を理解することができる。また，教科書の内容と図や資料を活用しながら知識を身に付けることにより，科学的に応急手当の意義と基本について理解することができと考えられる。

学校生活やこれまでの実体験を基に振り返らせ学習を進める中で，今後の生活について望ましい考え方や行動の仕方ができるようになることもねらいとしている。さらに，一般市民が行う心肺蘇生などの救命処置については，悪意・重過失がなければ救急蘇生法の実施者が救急患者などから責任を問われることはないとされているため，一人一人が応急手当の技術を学び，積極的に活用しようとすることは，生命を守り，事故や災害に対応できる社会の一員としての資質を高めることにつながると考える。

4　生徒の実態　【２年生198名実施　実施日平成27年４月24日（金）】

(1) 保健分野の授業は好きですか。

好き	23.7%
どちらかというと好き	39.5%
どちらかというと嫌い	31.5%
嫌い	5.3%

(2) 保健の授業で習ったことなどが，実際の生活で役立っていますか。

役立っている	21.2%
どちらかというと役立っている	57.8%
どちらかというと役立っていない	18.4%
役立っていない	2.6%

(3) あなたは，今までに病院へ行って治療を受けるようなけがをしたことがありますか。

ある	60.5%
ない	31.6%
覚えてない	7.9%

(4) (3)であると考えた人は，そのけがをした内容について全て選びなさい。

ねんざ	34.2%	その他
骨折	26.3%	・　ペットにかまれた
突き指	10.5%	・　疲労骨折
脱臼	7.9%	・　やけど
打撲	7.9%	・　頭の切り傷　など

(5) あなたは，けがなどが起きたときに，自分で判断し敏速に対処することができますか。

できる	57.9%
できない	13.2%
わからない	28.9%

(6) (5)で「できない」「わからない」と答えた人は，どのような理由か答えなさい。(複数回答可)

正確な知識がないから	68.7%
対処したときに余計悪化させてしまいそうだから	54.5%
対処の仕方がわからない	28.9%
けが人を見ると具合が悪くなるから	0.0%

(7) あなたが，応急手当についての知識や身に付けたい処置の仕方は何ですか。

応急手当の一連の流れ	63.9%
ちょっとしたけがの処置の仕方（切り傷，すり傷，やけど，打撲など）	57.9%
重傷なけがが起きた場合の処置の仕方	55.2%
大けがの処置の仕方（骨折，脱臼，ねんざ，止血など）	50.0%

(8) 保健の授業で学んだ知識を実践に結びつけるために，自分なりに考えたことを簡単な絵や図，言葉で整理することについて，どのように思いますか。最も近いものを１つ選び理由まで答えなさい。

好き	23.7%
どちらかというと好き	39.5%
どちらかというと嫌い	31.6%
嫌い	5.3%

〈好き・どちらかというと好きの理由〉
- 整理することで，より理解できるから
- 絵や図にすると，後から見直しても分かりやすから

〈嫌い・どちらかというと嫌いの理由〉
- 時間がかかるから
- 言葉でまとめるのが苦手だから

（考察）

質問１より，保健分野の授業に興味をもっている生徒は63.2%であった。質問２より，習ったことが実際の生活で「役立っている」，「だいたい役立っている」と答えた生徒は79%いる。中には保健分野の授業が「どちらかというと嫌い」，「嫌い」と答えた生徒も含まれており，興味はないけれども役立つ内容であることは理解している。

質問３，４より，今までに病院へ行って治療を受けるようなけがをしたことのある生徒は，60.5%と半数以上いることがわかる。そのけがの内容については，ねんざ，骨折，突き指などが挙げられている。質問５，６より，「けががあったときに，自分で判断し迅速に対処できない」，「わからない」と答えた生徒は40.1%である。その理由として，最も多かったのは，「正確な知識がないから」次いで「対処したときに余計悪化させてしまいそうだから」など，対処したくても知識がないことや不安な気持ちから対処できていないことがわかる。質問７より，応急手当についての知識や身に付けたい処置の仕方については，特に「応急手当の一般的な流れ」や「ちょっとしたけがの処置の仕方」について挙げている。このことから，応急手当についての意義や基本について，どのような対処や行動の仕方をすればよいか，養護教諭からの日頃の学校生活の話を基に関連付けて考えさせていきたい。質問８から，自分なりに考えたことを簡単な絵や図，言葉で整理することについては，苦手意識をもっている生徒が36.8%いるので，グループ活動で互いに考えを引き出させながら知識の定着を図りたい。また，実際の状況を想定する事例を提示し，話合いを深めながら対処の仕方を工夫させていきたいと考える。

以上のことから，本題材では，生徒の興味・関心をもたせるために，応急手当についての専門的な知識の定着を図ることをねらいとし，養護教諭とのティームティーチングを取り入れる。また，リーダーを中心としてチームで話合い活動をしながら学習を進めることによって，実践意欲を高め，傷害の防止に積極的に取り組んでいけるような授業を展開していきたいと考えている。

5 「応急手当の意義と基本」の学習・指導のねらい

(1) けがをしたことのある場面を事例として取り上げ，原因や防止策はなかったかを話し合わせた上で，日頃の学校生活の場面や自分の行動と結び付けて傷害の防止について考えさせる。

(2) 応急手当の必要性として，痛みや不安を和らげたり，けがや病気の悪化を防いだり，生命を救ったりすることができるなどの意義やきずの手当について理解させる。

(3) 応急手当の一般的な流れを理解させるとともに，適切な判断とけがの悪化を防ぐ方法を身に付けることで，けが人を発見した時やけがをした時に自分で速やかに対処できる態度を育てる。

6 「応急手当の意義と基本」の学習指導上の方針・方策

(1) 協働による創造的な活動を活性化させるための工夫 【教科論３(1)】

事例Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを用いて課題解決に協働的に取り組ませることで，知的コミュニケーションの機会を意図的に増やす。

ア 事例Ⅰでは，どのような行動を必要とするかウェビングやブレインストーミングの手法を用いて応急手当の意義を理解させる。

イ 事例Ⅱでは，実際の場面に遭遇した際に学習した知識と行動の仕方を結び付けるために，チー

ム毎にリーダーを中心とした話合い活動を行わせる。

ウ　事例Ⅲでは，授業で得られた応急手当についての知識と技能を結び付けるために，チーム内で実際に一連の流れをロールプレイングさせる。

(2) 協働による創造的な活動を活性化させるためのチームリーダーの育成　【教科論３(３)】

ア　チームリーダーを決定する際の情報を得るために，事前にアンケートを行い，保健分野に対する興味や関心，リーダーとしての意欲を確認する。

イ　円滑に学習を進めさせるために，各チームのリーダーに「リーダーブック」を資料として持たせ活用させる。

(3) その他

ア　一人一人の生徒に，様々な事故や傷害が発生した時の対処の仕方についての理解を深めさせるために，傷害に対する意識調査を事前に行う。

イ　基本的な知識を身に付け，身に付けた知識を生かしながら学習課題を解決させるために，単元の指導計画の作成においては，各題材の配列を工夫し，傷害の防止について関連させながら単元を総合的にとらえた授業を行う。

ウ　傷害の原因として中学校での傷害の現状に対して，身近な問題としてとらえさせるために，本校の傷害件数や種類等を教科書と比較しながら提示する。

エ　自己の健康や生活習慣の見直しを図るために，傷害の防止と自分の生活を結び付けて考える場面を設定する。

オ　日頃から生徒の応急手当に携わっている養護教諭とのティームティーチングを取り入れ，けが人や病人に直面した時に実践できるようにするために，応急手当についての知識を身に付けさせる。

カ　傷害の防止に関する情報や問題点に信憑性をもたせたり，個々の傷害に対する意識を高めたりするために，養護教諭だから知り得る情報を資料やデータを使いながら説明する。

7　単元の指導計画

時間	学習内容	学習活動	備考
1	○　傷害の原因と防止 ・　傷害とその原因 ・　傷害の防止	○　傷害は人的要因と環境要因などが関わって発生すること，また，傷害の多くは安全な行動，環境の改善によって防止できることを理解する。 ・　傷害の要因は，人的要因と環境要因に分けて考えることができること。 ・　傷害を防ぐには，人的要因と環境要因のそれぞれについて適切な対策をとることが必要であること。	・　養護教諭とのティームティーチング ・　プレゼンテーションソフト ・　学習資料 ・　ビデオ 関連写真 ・　ワークシート ・　ロールプレイング
2	○　交通事故の現状と原因 ・　中学生の交通事故の現状 ・　交通事故の原因	○　交通事故は人的要因，環境要因，車両要因が関わって発生することを理解する。 ・　中学生期には自転車乗用中や歩行中の交通事故が多く起こっていること。 ・　交通事故は人的要因，車両要因，環境要因が関わりあって起こること。	
3	○　交通事故の防止 ・　安全な行動と危険の予測 ・　安全な環境づくり ・　車両の点検と整備	○　交通事故などによる傷害の多くは安全な行動，環境の改善によって防止できることを理解する。 ・　交通事故を防ぐには自分の心身の状態，道路の状況，車両の特性などをつかみ，危険を予知することが大切であること。 ・　交通事故を防ぐためには，交通環境を安全に整えることも必要であること。	
4	○　自然災害に備えて ・　自然災害による被害 ・　自然災害への備え	○　自然災害による被害を防止するためには，日頃から災害時の安全に備えておくことが必要であることを理解する。 ・　地震や台風，集中豪雨などの自然災害は，生命や生活に大きな被害をもたらす危険があること。 ・　自然災害による被害の防止には，災害発生時に状況を正しく判断し，冷静・迅速・安全に行動すること，災害情報を把握すること，日頃からの安全への備えが必要であること。	
⑤	○　応急手当の意義と基本 ・　応急手当の意義 ・　応急手当の基本	○　応急手当を適切に行うことによって，傷害の悪化を防止することができることを理解する。 ・　傷病者が出た場合には，周囲の状況と傷病者の状態を観察し，その状態に応じた手当てや通報をする必要があること。 ・　適切な手当てはけがや病気の悪化を防止したり，生命を救ったりすることができること。	
6	・　実習	○　応急手当を適切に行うことによって，傷害の悪化を防止することができることを，実習を通して理解する。 ・　傷病者を発見したら，意識の確認，気道確保，呼吸の確認，人工呼吸といった手順が必要であること。 ・　意識の確認，気道確保，呼吸の確認，人工呼吸の実習。	・　養護教諭とのティームティーチング
7	○　きずの手当	○　応急手当を適切に行うことによって，傷害の悪化を防止することができることを，実習を通して理解する。 ・　傷病者を発見したら，意識の確認，気道確保，呼吸の確認，人工呼吸といった手順が必要であること。 ・　意識の確認，気道確保，呼吸の確認，人工呼吸の実習。 ・　きずの手当ての基本は，止血，細菌感染の防止，痛みの緩和であること。 ・　止血法の実習（圧迫止血法） ○　応急手当を適切に行うことによって，傷害の悪化を防止することができることを，実習を通して理解する。 ・　包帯法の実習（圧迫止血法） ・　三角布での固定の実習（捻挫，骨折の手当て）	・　養護教諭とのティームティーチング

8　本時の実際

(1)　指導区分　5/7

(2)　ねらい

ア　応急手当について関心をもち，意欲的に学習活動に取り組もうとしている。　【関心・意欲・態度】
イ　身近によく起きているけがや傷病者が出たときの通報や応急手当の仕方について考えている。　【思考・判断】
ウ　応急手当の意義を理解し，傷病者が出た場合の適切な判断や手当の仕方を理解している。　【知識・理解】

(3)　本時の学習過程

学習過程	時間(分)	学習内容及び学習活動	留意点（○）及び援助・支援（●）研究の手立て（★） ＴＴの主な関わり（Ｔ１：保健体育教諭・Ｔ２：養護教諭）	備考 形態
導入	10' 2'	1　傷病者を発見したことを想定して，どのような応急手当ができるか１名の生徒が代表でロールプレイングしながら確認する。 2　傷病者が出たときに，今ある知識で行える応急手当ととれる行動をウェビングやブレインストーミングなどの手法を活用して挙げる。 ・　チームで意見交換をする。 ・　チームで挙げた内容を学級全体で出し合い，どのような行動が必要かについて全体で共有する。 3　学習課題を確認する。 病人やけが人を助けるためには，どのような行動をとればよいだろうか。	○　傷病者が出たときに，どのような行動がとれるかを確認するために，ロールプレイングして実態を把握させる。 ●　身近な所で傷害が起きていることを認識させるための傷害事故の紹介 ○　事前（災害）の授業を振り返らせることで，様々な状況が想定できることに気付かせる。 ○　自分で気付かなかった内容について友達の考えも参考に学習シートに記入させる。 ★　これまでの経験を振り返り，対処できる方法を引き出すためのウェビングやブレインストーミングの活用(T1･T2) ○　本時の課題をとらえさせるために，応急手当の意義についてグループで確認した内容を関連させながら共有させる。(T1･T2) ○　本時のまとめにつながるように，板書を工夫する。	・　視聴覚機器 ・　事前アンケートの提示 ・　学習シートの活用 ・　事例Ｉの提示 個 ↓ チーム ↓ 一斉 ・　学習課題の提示
展開	15' 5' 13'	4　応急手当の必要性について理解する。 ・　チームで挙げた内容に触れながら，応急手当の基本について理解する。 ・　その場に居合わせた人が，何らかの処置を行うことで傷病の悪化を防止できることを理解させる。 5　応急手当の意義を基に，傷病者が出たときの応急手当の一連の流れと，またどのような役割分担が必要かチーム毎に確認する。 ・　事例IIについて，チーム内で考えられる内容を挙げる。 ・　チームで挙げた内容を学級全体で出し，どのような行動が必要かを全体で共有する。 6　傷病者が出たときの応急手当を身に付けるために，ロールプレイングしながら一連の流れを確認する。	○　救命処置を行うことにより，救命の可能性が上がることを理解させる。(T2) ●　「救命処置の開始時間と救命の可能性の関係」を示したグラフの掲示 ○　応急手当の様々な方法を紹介し，どのような場面で必要かを理解させる。(T2) ○　応急手当の一連の流れについて，理解させる。(T2) ●　ＡＥＤの紹介と設置場所の提示（T2） ○　学校現場での対応と関連させて，これまでの状況や災害について考えさせる。(T1･T2) ★　応急手当の知識と行動の仕方を結び付けるためのチームリーダーを中心とした話合い活動 ★　応急手当についての知識と技能を結び付けさせるためのロールプレイングの活用 ○　授業で得られた応急手当についての知識と技能を結びつけ実際に一連の流れをロールプレイングしながら手当の流れを習得させる。(T1･T2) ○　学習した内容が理解できているか，役割分担を決めて行わせる。 ○　チームの動きを観察し，学習した内容に基づいて行動できていたかなど気付いたことをアドバイスさせる。 ●　様々な状況に遭遇しても適切に処置できるかを確認させるための資料提示	・　プレゼンテーションソフトによる資料提示 ・　事前アンケートの提示 ・　グラフ「救命処置の開始時間と救命の可能性の関係」提示 ・　ＡＥＤの紹介と設置場所の提示 ・　事例IIの提示 チーム ↓ 一斉 ↓ チーム ・　事例IIIの提示
終末	5'	7　本時のまとめ ・　学習を振り返り，課題に対してどうすればよいか学習シートにまとめる。 ・　全体で発表し合い，考えを共有しながら整理し，まとめる。 8　次時の確認	○　課題についてのまとめを学習シートに記入させる。 ○　個々の考えを発表させながら全体で共有することで，学習の深化を図る。 ○　応急手当を学習し，「できるようになったこと」「まだできない」ことが何なのかを把握させる。 ○　次時は，応急手当（心肺蘇生法・心臓マッサージ・ＡＥＤ）の取扱いについて学習することを連絡する。	・　学習シートの活用